



為石小学校の合言葉 「ためし 最高! ~地元で学び 地元を活かし 地元とともに行動する子ども~」



学校だより

○楽しく めあてをもって しっかり学ぶ
○正しく めあてを しっかり守る
○たくましく めあてに向かって しっかり鍛える



ためし



令和7年4月14日号 文責 上久木田 雄二

入学式 式辞から

私としての最後の入学式の式辞が終わりました。式辞は、できる限り自分の言葉で語りたいと私は思っています。

先日の入学式の式辞では、「覚悟」についての話をしたつもりです。

子ども園の卒園式で、私が子どもたちに語り掛けた言葉があります。

「待つこと」「謝ること」「許すこと」の3つです。この3つは、子育ての前に立ちはだかる壁でもあります。

子どもたちの成長を見守ることは「待つこと」に他なりません。

子どもがいけないことをすれば、親として謙虚に謝る気持ちが必要なこともあります。

反省の気持ちを述べる相手を許す寛容な気持ちが、子どもの健やかな成長につながることは疑いようのない事実です。

未来志向で、子どもたちの成長に何が必要かをこれからも一緒に考えてまいりましょう。

待つことを忘れると、子どもを急かすことになります。いつの間にか大人のペースに子どもを巻き込み、子どもが考えることをさえぎり、指示待ち人間になります。待つことを忘れれば忘れるほど、

待つ時間は短くなるどころか長くなってしまふのです。

謝ることと許すことは、表裏一体です。

謝ることができれば、許す気持ちも育っていきます。許す気持ちが育ってなければ、自分の非を認めない人間になってしまふのです。

子どもは未熟ですので、たくさんの失敗をします。小学校での仲間関係の中で悪いことをしてしまうことも必ずあります。

失敗をしたり悪いことをしたりしたときこそ、子育てのチャンスだと捉えてください。

他人の責任（せい）にするのではなく、自分としては何がいけなかったのか、どうすればよかったのかを考えさせる機会だと捉えてください。

アインシュタインは、「苦労は不幸ではない。苦労はおもいやりを教える」と言っています。

子育ての苦労は、決して不幸ではありません。「子育ての苦労こそ、子どもたちの思いやりの心を育てる」ということを心に刻みたいと思います。

HPはこちら



二次元コード読み取り 「カラー版は、ホームページでご覧いただけます。」

